

2026 年 1 月 30 日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
2025 年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
教育課程編成委員会
委員長 今村雅彦

2025 年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記の通り報告します。

1 委員総数 〈13 名〉

横浜国立大学教育学部教授	園田 菜摘
横浜国立大学教育学部教授	藤井 佳世
東俣野幼稚園園長	川戸俊一郎
認定こども園はらのこはら幼稚園園長	石井 和則
認定こども園育和幼稚園園長	森谷 恭子
八幡橋幼稚園園長	秋山菜穂美
聖ヶ丘保育専門学校	校長 今村 雅彦
〃	副校長 渡辺 潤一
〃	事務長兼入試・広報部長 最上 正純
〃	教務部長 黒石 憲洋
〃	就職指導部長 亀田 良克
〃	学生指導部長 竹内 真悟
〃	実習指導部長 岸本 圭子

2 教育課程編成委員会開催日時

第 1 回 2025 年 9 月 3 日（水）16 時～17 時 30 分

第 2 回 2025 年 9 月 24 日（水）16 時～17 時 30 分

〈開催場所〉 聖ヶ丘保育専門学校 1 階 会議室

3 委員会次第

第 1 回委員会次第

- （1）学校長挨拶
- （2）2024 年度教育課程編成委員会報告書の対応状況
- （3）質疑応答

(4) 次回議事内容及び日程等

(5) その他

第2回委員会次第

(1) 質疑応答

(2) 2025年度教育課程改善方策(案)

(3) その他

(4) 学校長挨拶

※学校法人聖ヶ丘学園 聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部長 岸本圭子(欠席)

4 議事報告

2025年度教育課程編成委員回改善報告 (別添資料参照)

(別添資料)

2026 年 1 月 30 日

2025 年度教育課程編成委員会改善報告

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

項目	現在の状況報告	委員からの提言	今後の対応措置
① ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none">● コロナ禍より利用を開始した学習管理システム LMS (Google Workspace) の利用を継続しており、各科目における利用も徐々に拡大してきている。	<ul style="list-style-type: none">● 就職先、実習先の ICT 機器の活用法を確認・情報交換をし、教育内容へ反映してはどうか。	<ul style="list-style-type: none">● LMS の利用を拡充していく方向である。● PC をはじめとした情報機器の使用方法など、授業を通じて学んでいく。
② 学生のコミュニケーション能力について	<ul style="list-style-type: none">● クラスをより少人数のグループ (17~24 人) に分割し、担任を置くグループ担任制を開始した。● 時間割にホームルームの実施時間を明記し、全学科全学年で実施する試みを開始した。● 文化祭では、昨年度より附属園と協力して園児を文化祭に招待する試みを始めた。	<ul style="list-style-type: none">● グループ内での関係性の作り方に注力し、異年齢、環境の違う方へのアプローチがあってもよいのではないかな。● ホームルームの内容について、絵本の読み聞かせやわらべうたを学ぶ、自分の得意なことを発表させる等を実施してはいかがかな。	<ul style="list-style-type: none">● ホームルームの内容や運営には課題も多いが、前期は校長の指示の下、課題やアイデアを教員検討会議で共有した。後期も引き続き検討・共有していく。● 今年度も内容を改善し、園児招待を実施する。

③ 学校施設の活用に関して	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームルームを継続的に実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 男子学生の受け入れに伴い、学校施設の使い方を変更したため、それを踏まえて調査を検討する。
④ 文章力の低い学生への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 年次の教育保育実地研究の授業内で、「正しい文の書き方」として、具体的な表現を考え書く授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章を書くだけではなく、伝わる文章・誤解をうける文章を比較させ、学生に確認してもらうのはどうか。 ● 実習日誌作成時にどのように思ったかを話してもらい、具体化したものを言語化する、日々の関わりを言語化することですすめてみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パソコンでも記録できるように、日誌や指導案などのフォーマット作成の検討を継続する。
⑤ 修学意欲の低い学生への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生ピアノレッスンを再開した。 ● AO 入試にて学生生活への展望を問うている。 ● 高校生向けの職業ガイダンスに本校附属園の教職員が参加することで、保育職を希望する学生の意思を強固にする。 ● ホームルーム、保育実践演習、窓口で学生の機微を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オープンキャンパスで卒業生の講演を行うのはどうか。 ● 中学生に対してガイダンスを実施してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2025 年度 AO 入試面接時に、入学後の目標に関する質問事項の追加を検討。 ● 2025 年度においても卒業生によるオープンキャンパスを実施する。 ● 2025 年度高校進路ガイダンス等で本校教員の派遣を検討。 ● 担任面談、スクールカウンセラーの紹介等の連携は随時おこなっているが、具体的な対応に繋げられるような体制構築につい

	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理職宛の意見箱を設置している。 ● 学生の抱える各種問題に対応する分掌を再確認し、各部の独断で対応することのないよう、クラス担任を中心とした情報共有・学生対応のフローを作成した。 ● 新様式となった履修カルテから 3 つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)および個人としての目標を記入する欄を設け、「教育保育実践演習」の授業内で、自身の達成度と卒業までの課題を明確化する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見箱の設置は継続して欲しい。 ● 悩みの内容を精査し、学生のためになる対応の研修や知識を得る機会をもつのはいいかがか。 ● 学校が求める保育者像と学生の理想とする保育者像を確認しながら、卒業するまでに学生本人に考えてさせるよう個々にサポートできる体制を検討してはどうか。 	<p>て検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生から得た情報の管理は誰が行うかをシステム化する。 ● 担任教員、専門教員、管理者等が連携し、個々の学生の目標達成を支援するチーム体制の実現可能性について検討する。 ● 3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)について個々の目標の参考となるよう具体的な文言を見直す。履修カルテを活用し、個々の目標発表に繋げる。
⑥ リカレント教育ならびに卒業生の就労実態把握等について	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年度 7 月期の実習より、2008 年度以降に卒業した学生の新卒時内定先リストを作成し、実習巡回時に訪問教員が在籍有無の確認ができるようにしている。 ● おもちゃインストラクター養成講座及び幼児安全法支援員養 		

	<p>成講座を卒業生にも開催・実施した。また、卒業生にオープンキャンパスへ参加してもらっての現場体験談も引き続き開催予定である。</p> <p>さらには、昨年度と同様に同窓会組織を文化祭に招聘して活動してもらうことも検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就労上のトラブルや問題が生じた際には一人で抱え込まずに就職指導部宛に気軽に連絡を入れられるようインフォメーションしている。 ● 後期授業内で卒後の就労状況アンケート調査の実施方法ならびに内容についてアナウンスすることを検討している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業生に対し、さまざまな研修があるが、リカレント教育を卒業した学校という慣れた環境下で実施してはいかがか。また、就業後の相談窓口としての役割を担うのはいかがか。 ● 同窓会組織と連携することも検討してはいかがか。 ● インドア、アウトドアともに遊びのプロフェッショナルを育成するための情報の周知をしてみてはいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 在校生同様、卒業生についても勤務の悩みの早期発見を目指し、そのうえで、学びたい講座内容を調査することを検討している。
--	--	--	--

<p>⑦ その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ハラスメントに対する基本方針は法人として教職員に向けて打ち出している。 ● 実習時間の学生へのサポート体制は、クラスルームを活用して各自確認できるようにし、相談等は持続可能なように(部員の負担を減らすべく) 19 時までの対応としている。 ● 実習のための指導内容を男女別に変更するということではなく、全ての学生に子どもへの関わり等、自己判断するのではなく、保育者の指示を仰ぐように伝えている。 ● 男子学生を受け入れる際に、学校での教育の中身や伝えるべき事、男子ならではの何か学校として取り組むべきことを検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の個性(特性)をいかしながらの実習を行うのはいかがか。 ● 在校生に対する実習に関するアンケートを実施するとよいのではないか。 ● 就職先が求める男子学生像を調査すると就職先を選びやすくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 巡回訪問教員のサポート体制の検討を継続する。
--------------	---	--	--

以上